

合格者数は自家発925人、可搬形490人

平成25年度専門技術者講習・試験

内発協ではこのほど、11月29日に開催された自家用発電設備審査委員会の審査結果に基づき、平成25年度実施の専門技術者講習・試験の合格者を決定した。合格者数は、自家用発電設備専門技術者（以下、自家発専門技術者）が受験者1,020人の内925人、可搬形発電設備専門技術者（以下、可搬形専門技術者）が受験者530人の内490人、合計1,415人となった。

合格者数を昨年度実績と比較すると、受験者数の減少に伴い、自家発専門技術者は12%減少、可搬形専門技術者は18%減少し、全体としては昨年度（1,637人）と比較して合格者数が約14%減少した。

1. 新規合格者が取得した業務区分

自家発専門技術者の新規合格者が取得した業務区分の内訳については、据付工事部門（K）と保全部門（M）の2部門を取得した合格者が約4割を占めて圧倒的に多かった。次に保全部門（M）の1部門のみ。さらに装置部門（S）とKとMの3部門の順であった。受験者の内「電気工事業」又は「保守・修理業」に従事する者が多かったため、KとMの両方の取得が多かったと推測される。

2. 業務区分追加42人、科目別31人

新規受験者の講習・試験と併せて実施された「科目別受験」では31人、「業務区分追加受験」では42人がそれぞれ合格した。

科目別受験とは、受験科目の一部が合格点に達しなかったために合格できなかった者が、次年度に合格点に達しなかった科目を再度受験する方式である。

一方で、業務区分追加受験とは、既に専門技術者の資格を保有している者が、現在の業務区分に、新たな業務区分を追加する目的で、改めて受験する方式である。

3. 会場別の合格者数

合格者数を受験した会場別にみると、自家発専門技術者では受験者数が最も多かった東京会場が全体の約3割以上を占め圧倒的に多く、次いで大阪、名古屋、福岡の順。昨年度と比較して名古屋が増え、福岡と逆転した。

一方、可搬形専門技術者でも東京が約3割を占めて最も多く、次いで、名古屋、大阪、福岡の順で、可搬形も名古屋での合格者が増えた。

4. 業種別の合格者数

合格者数を業種別にみると、自家発専門技術者では各種施設での「電気工事業」又は「保守・修理業」に従事する者が合格者数の全体の約6割を占め圧倒的に多く、次に「製造業」へと続き、この傾向は例年どおりであった。

一方、可搬形専門技術者も建設現場での「土木工事業」に従事する者が圧倒的に多く過半数を超えた。次に建設会社向けに建設機械などを供給する「賃貸（リース・レンタル）業」、「建築設備工事業」と続く傾向は例年どおりであった。

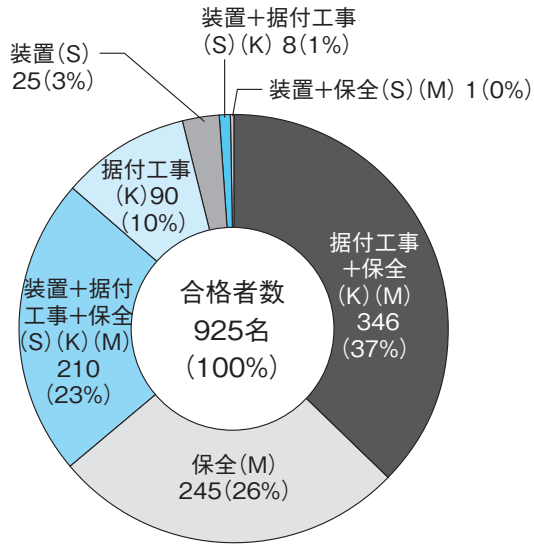
5. 年齢別の合格者数

合格者数を年齢別にみると、自家発専門技術者では30代が圧倒的に多く約4割を占め、次いで40代、20代、50代以上の順であった。50代以上に比べて20代が多い傾向は、昨年度と同じで、自家発専門技術者でも世代交替が多くなったことが推測される。

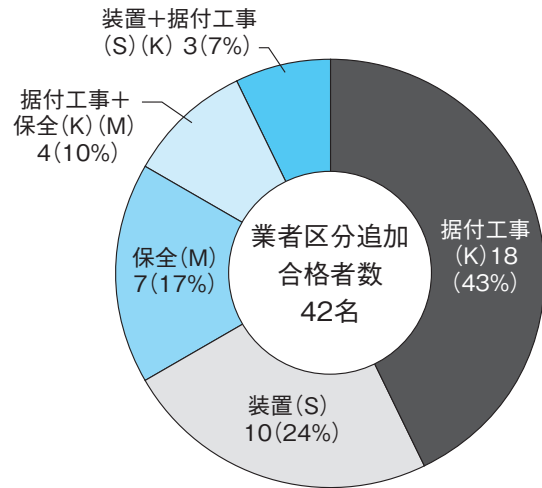
一方、可搬形専門技術者は40代が最も多く約4割を占め、30代、50代以上、20代の順であった。例年は30代が最も多い傾向であったが、ここ数年30代に比較して40代が増えてきており、今年度は40代と30代の順位が逆転した。自家発専門技術者とは傾向が異なり、「土木工事業」等の業種に40代が増えている傾向が推測される。

合格者が取得した業務区分

1. 自家発の新規合格者が取得した業務区分



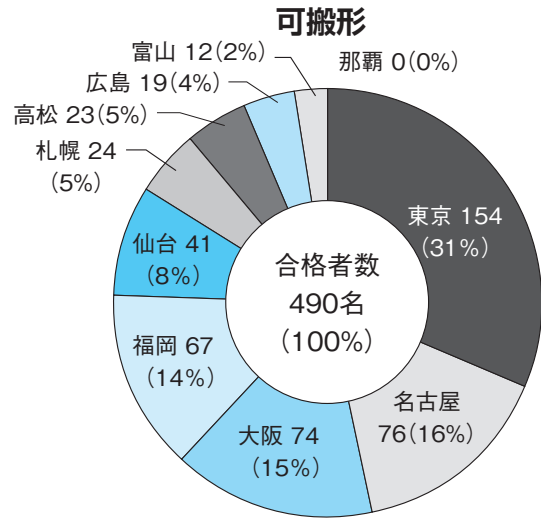
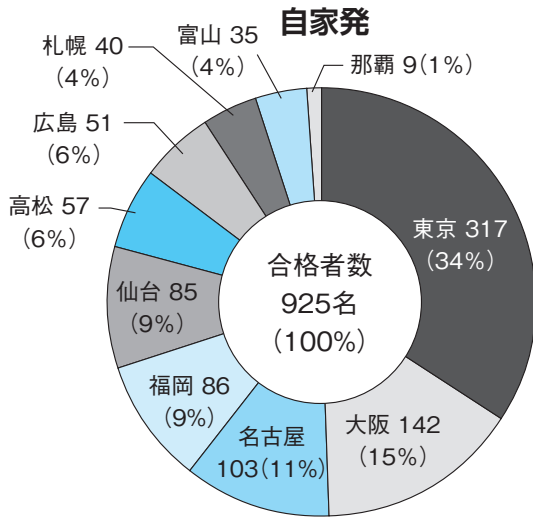
2. 自家発の取得保有者が追加取得した業務区分



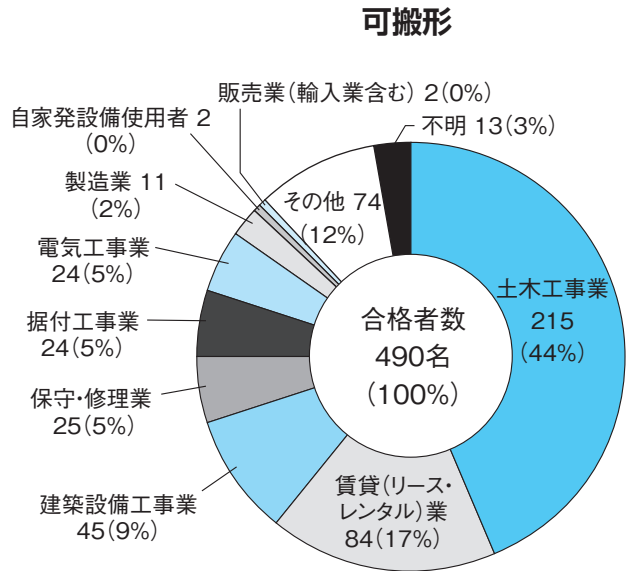
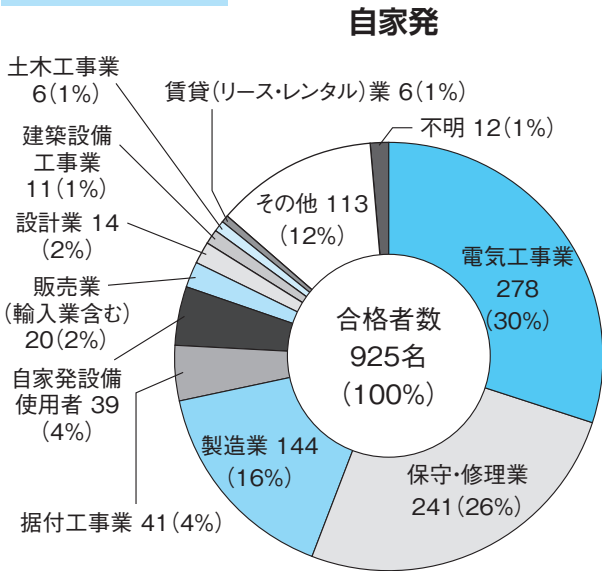
10月10日、高松会場での自家発講習・試験

会場別・業種別・年齢別の合格者数

3. 会場別



4. 業種別



5. 年齢別

